●Aコース

春の花

Ⓐ−1 スギナ
Ⓐ−2 ニリンソウ
Ⓐ−3 キブシ
Ⓐ−4 オオイヌノフグリ
Ⓐ−5 カタクリ

このコースでは春に花が咲く草や木を調べます。

5つの調査対象種のなかにははじめて聞く名前の植物があるかもしれませんが、花の咲く時期をのがさなければ、どれも見分けのやさしい、まちがえにくいものばかりです。

スギナや**オオイヌノフグリ**は、家の周りの道端や空き地、畑など日当りの良い所で見られます。春、早いうちに、**スギナ**では「ツクシ」を、**オオイヌノフグリ**ではコバルト色の小さな花を探してください。

一方、**ニリンソウ**と**カタクリ**は、丘陵地や低山の林のなかで見られます。桜の花が咲く頃、木々の葉が芽吹く前の雑木林を訪ねてみましょう。林床一面に広がった可憐な花に出会えるかもしれません。

このコースには樹木（**キブシ**）も含まれています。林の縁や崩壊地など、夏にはやぶになるような所を探してください。早春、葉を広げる前に、淡い黄色の小さな花が穂になってすだれのように垂れ下がった低木が見つかるでしょう。

調査対象種のそれぞれの生育環境をつかんで、花の咲く時期に調べてください。

Ⓐ-1

スギナ

●*Equisetum arvense*

■かたちと大きさ

高さ10～20cmほどのシダ植物。胞子を作る胞子茎（ツクシ）と、緑色で光合成を行なう栄養茎（スギナ）がある。ツクシとスギナは別の植物のように考えられがちだが、同じ植物である。ツクシでは葉緑素が作られないため、全体は淡褐色である。

■見られる場所

土の軟らかい畑や土手、休耕田、埋立地など、いたる所に生える。

■くらし

胞子で増えるスギナは、一度定着すると地下茎をのばして広がっていく。地下茎の節のところから新しい栄養茎を出す。また地中にできる小さなイモが、母体から離れて広がっていくこともある。未熟な株では、栄養茎だけ出て胞子茎にあたるツクシを作らないことがある。

■おもな分布地

南西諸島を除く全土。

■見分け方

早春（3～5月）、ツクシを探してみよう。スギナには、よく似たイヌスギナがあるが、イヌスギナは胞子茎と栄養茎の区別がなく、栄養茎の先端に胞子の穂（ツクシの先端部分）をつける。

スギナとイヌスギナを見分ける一番確実な方法は、「ツクシ」を確認することである。

A-2

ニリンソウ

●*Anemone flaccida*

■かたちと大きさ

高さ15～30cmほどの多年草。葉には2種類あって、ひとつは深く切れ込んで根ぎわから出る長い柄のある葉（根生葉）で、他は茎の中ほどにつく柄のない葉（総苞葉）である。

茎の先に直径2cmほどの白い花を1～4つつける。花は4～5月に咲き、花びらのように見える5～7枚の白いがく片と、たくさんの雄しべ、10個ほどの雌しべからなる。

■見られる場所

沢沿いの雑木林の下や、杉林の林縁など、明るくて湿った所に見られる。

■くらし

4～5月、林内の木々が芽吹く前に地上に姿を現し、花をつけ、実を結び、6月になると地下茎を残して枯れてしまう。種子のほかに地下茎によっても増えるので、群生しているところをよく見かける。

■おもな分布地

北海道、本州、四国、九州。

■見分け方

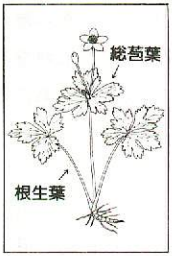
似たものに、イチリンソウやサンリンソウがある。イチリンソウは茎の先に大きな花（直径4cmほど）を1つしかつけない点で区別できる。サンリンソウはよく似ているが、花がやや小さく（直径1.5cmほど）、総苞葉に短い柄がついている点で区別できる。

■注意

和名は「二輪草」だが、花の数は2つとは限らない。

■その他

地方によっては、フクベラ、セキナ、コモチグサ、ヤマソバ、ソババナ、ソバパなどと呼ばれている。



キブシ

●*Stachyurus praecox*

■かたちと大きさ

高さ３ｍほどになる落葉低木。地ぎわから枝が何本も分かれて広がる。３～４月、葉がでる前に、枝から３～10cmほどの花穂が垂れ下がり、淡い黄色の壺型をした小さな花をたくさんつける。花には、雄しべの長い雄花と短い雌花がある。花よりやや遅れて出る葉は卵形で、先が尾のようにとがり、縁にギザギザ（きょ歯）がある。

■見られる場所

林の縁や崖線、崩壊地など、夏にやぶになるような日当りの良い場所に多く見られる。

■くらし

林の縁や崖などには、キブシのような根元からたくさん枝を出す低木やつる性の草などが多く見られる。このような林の縁に見られる小さなやぶを「マント群落」と言い、林を乾燥や強風から守る重要な働きをしている。

■おもな分布地

北海道南部、本州、四国、九州。

■見分け方

庭や公園でよく見かけるトサミズキとヒュウガミズキはやや似ている。花の穂のつけ根に注目すると、トサミズキとヒュウガミズキには黄緑色の大きな卵形の苞（ほう）（花を包んでいた袋状の葉）があるので、区別できる。

■その他

地方によって、キフジ（黄藤）、ブラブラノキ、マメノキ、フシノキ、アズキナ、ズイッポ、ズイノキ、アメフラシなどのたくさんの呼び名がある。

A-4

オオイヌノフグリ

●*Veronica persica*

■かたちと大きさ

地面をはい、時に30cm以上に伸びる越年草。葉のつけ根から長い柄を出し、その先に直径1cmほどのコバルト色の花をつける。花は、日だまりでは12月中から、一般には2～4月に咲き始める。春の到来を告げる花の一つ。花びらは4つに裂け、濃い色の縦縞(しま)がある。日によく開き、1日で散ってしまう。

■見られる場所

道端、空き地、畑、石垣の間など、日当りの良い所に生える。

■くらし

ヨーロッパ原産で、明治中期に日本に入ってきた帰化植物。花は、晴れた

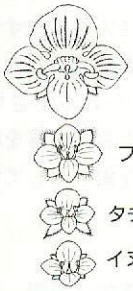
■おもな分布地

ほぼ全国。

■見分け方

似たものに、ヨーロッパ原産のフラサバソウ（花は紫色）やタチイヌノフグリ（茎が直立）、在来種のイヌノフグリ（花は淡いピンク色）がある。いずれも花が小さい（直径5mm以下）ことで区別できる。

■花の大きさの比較



カタクリ

●*Erythronium japonicum*

■かたちと大きさ

高さ10～15cmほどの小さな多年草。葉は1～3枚つき長卵形で軟らかく、表面に紫色の斑紋がある。紅紫色の花が長い柄の先に1つつき、斜め下向きに咲く。

■見られる場所

丘陵地から山地の落葉広葉樹の林床に生える。

■くらし

4月（桜の咲く頃）、葉を広げると同時に花をつける。高木の葉が茂る頃には、地下茎を残して地上部は枯れてしまう。カタクリやニリンソウのように、春の訪れとともに発芽し、短い期間に開花、結実する植物を、早春季植物（スプリング・エフェメラル）と言い、この仲間にはフクジュソウのような花の美しい植物が多く、温帯の落葉広葉樹林の春を彩る。

■おもな分布地

北海道、本州、四国、九州に分布するが、西日本では山中に生える。

■見分け方

似た葉を持つ植物は他にもあるので、必ず早春の花を見て確認しよう。紅紫色の花びらとがくは合わせて6枚あり、開くとそり返り、中に濃紫色のW字形の紋が見える。6本の雄しべと長い1本の雌しべを持っている。